

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473201091
法人名	医療法人社団 優和会
事業所名	グループホーム華寿園
訪問調査日	平成20年1月28日
評価確定日	平成20年2月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1473201091
法人名	医療法人社団 優和会
事業所名	グループホーム華寿園
所在地	241-0014 横浜市旭区市沢町571-1 (電話)045-351-0021

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤	10 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 7.5人

(2)建物概要

建物構造	木造+鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 85.9 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 新緑会脳神経外科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人社団 優和会が平成17年3月に開所したグループホームである。ロケーションは左近山団地と市立市沢団地の間にあり、横須賀線からも相鉄線からもバスで15分くらいで行ける横浜の住宅地に位置し、交通・生活に便利な場所であるが、住宅地のため車の量は少なく散歩などには最適な場所である。鍵を掛けない介護を実現している。ターミナルケアについてはもともと母体は健康管理センターではあるが医療法人であり、ターミナルケアについても充分理解があり、ご家族とは同意書を交わし、家族会で説明し、系列ではないが24時間対応可能な医師及び看護師と提携し、健康を管理する看護師はその往診医の看護師と契約し、更に往診医が見えた時には管理栄養士が同行して栄養状態をチェックするなどの体制が備っている。またアセスメントの充実を図るため、センター方式のアセスメント表の活用と展開に有効な具体的な介護計画の策定を実施している。また、近隣との接触強化のため意識して近所からスタッフを採用し、地域の幼稚園や保育園との交流を模索している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は特に無かったが、厚生労働省の指導である地域との密着が重要と考え地域対策に重点を置いて取り組んだ。前述の近所からのスタッフを採用もその1つである。ご近所の方を招いて行ったもちつき大会は地域から20名余、ご家族も同じく20名余とお集まり頂き好評であった。ご家族については大会後に家族会が開催出来た。もちつき大会の中でサロニックにご近所のお母さんたちが話していたり、お年寄りはお餅を丸めたりでご近所との一体感が持てるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対しては時間的制約がある中で素案を管理者、各ユニットリーダーで作成し、職員に配布、説明し周知・理解の上、個別に意見を出してもらい、その意見を加味した形で作成、送付した。評価のプロセスに於ける気付きや結果評価については課題を明確にし、改善策を立てて取り組んで行くことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>旭区の協力があり、説明会の後、自治会長に趣旨の連絡があり、華寿園として依頼に伺ったら快く引き受けて頂いた。運営推進会議のメンバーは自治会長、民児委員、入居者ご家族、入居者、華寿園スタッフが正メンバーでオブザーバーとして第1回目は旭区が、第2回目以降は地域包括支援センター(左近山地域ケアプラザ)が参加してくれている。現状は平成19年7月の第1回開催以降、2ヶ月に1回、計4回実施している。これの効果ではないが、地域ケアプラザで行われる「脳生き生き健康教室」に入居者が参加している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は良く訪問してくれている。本人、ご家族、ホームの三位一体の活動に取り組んでいて、お見えになった時はお散歩や食事介助を行って頂いている。ホームにいる親族との思い出作りはご家族にとっての自信に繋がると考えている。ご家族が来訪の時には、ご様子や暮らしぶりをお伝えし、ご家族の考えや要望をよく聞くようにしている。家族会は年1回の開催であるが、定期的なお便りを送付したり、電話連絡も随時おこなっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ケアプラザ(地域包括支援センター)に関しては催物への参加や「脳の健康教室」への参加などしているが運営推進会議の開催で協働が進むと期待している。旭区のスOSネットワークがあり、必要な人を個別に登録するようにしている。今年のもちつき大会は、地域の方と家族の方が一緒に行ったがホームの中に入るのは初めてという方も多くいらっしやっただけで、行事を通じてホームの様子を知って頂く良い機会となった。またホーム主催の体操教室にも近所の方の参加を頂き好評を得ている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「優しく笑顔でやすらぎを提供します」「ご本人の意志を第一にします」「地域社会と積極的に交流を持ちます」とあり、地域と共に生きるグループホームを目指すという基本的な考え方がある。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念と指針を張り出し、申し送りやミーティング、日々の職員教育の中で、何が大切なことなのか、理念を基本にした利用者への向き合い方を話し合っている。	○	さらに理念を意識して行動できるように、日々の話し合いで確認して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として行事に参加させていただいている。また、地域防災の委員の一人として毎月の委員会や防災訓練にも参加して、災害に際に備えている。もちつき大会は地域から20名余、ご家族も同じく20名余とお集まり頂き好評であった。ご近所から臼、杵も借り、人も出してもらい協力して頂いた。はまちゃん体操などの体操教室にも近所の方をお誘いしている。	○	今後は、学校や保育園、幼稚園とも交流を持つべく働きかけて行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価に対しては時間的制約がある中で素案を管理者、各ユニットリーダーで作成し、職員に配布、説明し周知・理解の上、個別に意見を出してもらい、その意見を加味した形で作成、送付した。自己評価を全員で取り組めるようにし、外部評価の結果を回覧して改善の話し合い、取り組みをしている。	○	職員全員が意義を理解し、改善や気づきができる機会としてもっと活用して行きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	旭区の協力があり、説明会の後、自治会長に趣旨の連絡があり、華寿園として依頼に伺ったら快く引き受けて頂いた。7月より2ヶ月に1回開催している。現在取り組んでいることや課題等を説明し、質問や意見をいただき、サービス向上に生かすようにしている。これの効果ではないが、地域ケアプラザで行われる「脳生き生き健康教室」に入居者が参加している。	○	今回行われる外部評価について第4回運営推進会議で理解を得ると共に、今後の会議で意見をいただきたいと思っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区グループホーム連絡会や直接関係各課と行き来しながら情報を頂いたり、連携に努めている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	本人、ご家族、ホームの三位一体の活動に取り組んでいて、お見えになった時はお散歩を一緒にやってもらえる体制が出来てきた。定期的な便り、運営推進会議の状況報告書で報告をしている。また、面会時に様子を知らせたり、電話により状況報告や相談をまめに行っている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、様子を知らせており、その際に意見が出やすい雰囲気作りに努めている。頂いたご意見は職員で話し合い、すぐ対応するように努めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはユニットの職員を固定しているが、異動や新入職員があった場合は、引継ぎ期間を長めにとる等配慮している。チームケアに徹しているので利用者へのダメージは無いようにしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を企画したり、外部研修も多くの職員が研修できるようにし育成に努めている。	○	勤務の調整をして、今後はさらに研修に行かれるようになっていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市、区のグループホーム連絡会に参加して情報交換や交流する機会を持っている。グループホーム間の職員交換研修も毎年行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、いつでも家族と電話できるようにし、また慣れるまで外泊予定を作ったり、定期的に面会に来てくれるように話をしている。	○	今後サービス開始前に行事やレクリエーションに来てもらうこと等を勧めたい。認知症デイサービスなども検討してみたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が活動できる場をつくり、職員が共に活動する中で支えあう関係が築けるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に向き合い、思いや意向を理解し、職員で情報を共有している。困難な利用者にも本人本位で検討している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を取り入れ、職員がアセスメントや計画作成に参加し、カンファレンスや話し合いの場で意見交換を行っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の心身状態の変化に応じて、職員、家族と話し合い計画書作成を行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望をよく把握するように努めている。	○	個人の外出希望に関しては、できる限り同行しているが、遠方は経験がないので検討したい。また、今後、認知症デイサービスなど他サービスの必要性も検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を取り入れ、主治医や医療機関を選択してもらっている。通院介助や情報交換は家族と相談しながら適切に行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、対応できるケアについての説明を行っている。段階に応じて、家族、医師等と相談、確認しながら対処している。ご家族との話し合いは持ちやすいが、本人の意志確認が難しいため、職員で話し合い、意志の把握に努めたい。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱は、スタッフに対して徹底している。また、日常の会話において、声掛けの仕方など、随時スタッフへの指導を行なっている。職員の意識向上に取り組み、日々の関わりの中で話していきたい。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日何がしたいのか把握し、体調に配慮しながら、できるだけ個別性のある支援をしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のみを業者から配達してもらい、下準備、盛り付け、後片付けを利用者と職員と一緒にしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間がほぼ定着しているので、その時間に合わせて配慮している。また、希望があれば随時入浴できるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態や力に合わせて家事活動を行っている。ホームで飼っている鳥の世話を率先して行っている利用者もいる。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康面と気分転換を心がけて、天気の良い日は必ず散歩に出かけている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の気分や状態を把握し、外出しそうな場合は、職員と一緒に行くようにしたり、庭に一人である場合は見守りをしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員1,2人は地域防災の委員として訓練に参加し、地域の人々の協力を得られるようにはしているが、利用者の訓練参加はしていない。	○	訓練時期が酷暑、厳寒時期で利用者の参加が困難であるが、全職員には避難方法を身につけさせたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、職員全員が情報を共有している。栄養士のアドバイスを受けながら、食事形態を工夫し、量の調整も図っている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした時間が過ごせるように、採光や音楽、家具の配置を工夫している。壁には、利用者と職員が一緒に作ったカレンダーを飾ったり、行事の写真を貼って、見て楽しんだり、話題作りにも利用している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物、使い慣れた物、好みの物を置き、家族の写真を飾ったりして居心地良い居室作りに配慮している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム華寿園
所在地 (県・市町村名)	241-0014 横浜市旭区市沢町571-1
記入者名 (管理者)	川島 貴子
記入日	平成 20 年 1 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「優しく笑顔でやすらぎを提供します」「ご本人の意志を第一にします」「地域社会と積極的に交流を持ちます」とあり、地域と共に生きるグループホームを目指すという基本的な考え方がある。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念と指針を張り出し、申し送りやミーティング、日々の職員教育の中で、何が大切なことなのか、理念を基本にした利用者への向き合い方を話し合っている。	○	さらに理念を意識して行動できるように、日々の話し合いで確認していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の会合やイベントに参加したり、地域の方と一緒にできるイベントを企画して事業所の内容を知ってもらうようにしている。	○	利用者、家族、地域の方々と一緒にできるイベントを考えたい。1月に「餅つき会」を実施した。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方にイベントの企画から参加していただいたり、庭作りの相談をしたりして日常的なつきあいをしている。また、道で出合った際のさりげない会話や挨拶も大切にしている、散歩で出合った際は声をかけていただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として行事に参加させていただいている。また、地域防災の委員の一人として毎月の委員会や防災訓練にも参加して、災害に際に備えている。	○	地域行事には、積極的に参加していきたい。また、今後は、学校や保育園、幼稚園とも交流を持ちたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護予防教室等を開催し、その際、認知症の理解のための話をしている。	○	地域の高齢者がどのような情報や教室を必要としているのか確認しながら今後役立つことをしていきたい。
---	--	-----------------------------------	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で取り組めるようにし、外部評価の結果を回覧して改善の話し合い、取り組みをしている。	○	職員全員が意義を理解し、改善や気づきができる機会としてもっと活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月より2ヶ月に1回開催している。現在取り組んでいることや課題等を説明し、質問や意見をいただき、サービス向上に生かすようにしている。	○	今回行われる外部評価について第4回運営推進会議で理解を得ると共に、今後の会議で意見をいただきたいと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区グループホーム連絡会や直接関係各課と行き来しながら情報を頂いたり、連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	諸団体が開催する研修に参加している。後見制度活用の相談にも行っている。	○	管理者やリーダーのみならず、他職員にも制度への理解を深めるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員の内部研修においては、必ず説明している。また、折に触れ、話をしている。	○	今後も引き続き話をし、言葉による虐待も注意を払うよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳細な説明を行い、理解していただけるようにしている。また、入居後もその都度、家族等に説明したり話し合いを持ち理解、同意を得るようにしている。	○	状態の細かい変化も説明し、ケアの方針を相談して決めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の態度や言葉から察して細かいことでも速やかに職員全体で話し合いを持つようにしている。	○	家族に訴えることから気がつくこともあり、それは速やかに対処している。これからも利用者の意見や不満に気づくように努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な便り、運営推進会議の状況報告書で報告をしている。また、面会時に様子を知らせたり、電話により状況報告や相談をまめにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、様子を知らせており、その際に意見が出やすい雰囲気作りに努めている。頂いたご意見は職員で話し合い、すぐ対応するように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや引継ぎの際、意見や提案を出してもらっている。また、日常の中で個々の職員と話し合い、意見等を聞き運営に反映させるようにしている。	○	さらに、一人一人が意見や不満を出しやすいように、個々に働きかけていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な人員の他にフリーで動ける人員を確保して、対応にあたる。また、外出や行事等、必要に応じて職員を確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはユニットの職員を固定しているが、異動や新入職員があった場合は、引継ぎ期間を長めにとる等配慮している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を企画したり、外部研修も多くの職員が研修できるようにし育成に努めている。	○	勤務の調整をして、今後はさらに研修に行かれるようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市、区のグループホーム連絡会に参加して情報交換や交流する機会を持っている。グループホーム間の職員交換研修も毎年行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が職員の悩みやストレスを把握するよう努めている。	○	休憩所の改善を行うこと、また、他事業所職員との交流も考えたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、定期的、また必要時に現場に来て、業務内容を把握し適切なアドバイスを行っている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に本人に会って心身の状態や思いを直接よく聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接ホームに来ていただいたり、お宅に伺ったりを何度かして家族の話をよく聞くようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には、本人、家族のニーズを見極め、受けられるサービスの選択肢を考え、情報提供し、本人、家族が望む生活を共に考えるよう努めている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、いつでも家族と電話できるようにし、また慣れるまで外泊予定を作ったり、定期的に面会に来てくれるように話をしている。	○	今後サービス開始前に行事やレクリエーションに来てもらうこと等を勧めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が活動できる場をつくり、職員が共に活動する中で支えあう関係が築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身状況の変化を、随時ご家族には報告し、思いを伺ったり、話し合いをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族はどのように一緒に過ごしたいかを、スタッフは把握し、ご家族の面会時には、ご希望の過ごし方が、実現できるように場を設定している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で馴染みの場所へ出かける機会を作ったり、馴染みの方の面会を受け入れたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を配慮すると共に、個々の希望を尊重するようにしている。	○	助け合う力や支えあう力が不足していると感じることがあるので、力を引き出すにはどうしたら良いか、職員で考えていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙や電話で様子をうかがったり、近所で家族と出合った時も近況をうかがったりしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に向き合い、思いや意向を理解し、職員で情報を共有している。困難な利用者にも本人本位で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の聞き取り調査を行なうと共に、開始後も、常に情報収集を行い、必要な情報はスタッフで共有するように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	共に過ごすことにより、総合的に把握し、必要なことを記録に残すことにより、スタッフとの情報の共有に努力していく。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を取り入れ、職員がアセスメントや計画作成に参加し、カンファレンスや話し合いの場で意見交換を行っている。	○	職員がもっと積極的に意見を出せるように考えたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の心身状態の変化に応じて、職員、家族と話し合い計画書作成を行っている。	○	迅速な対応に至っていないので、今後迅速な対応をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、本人の言葉や行動も記入して、本人の全体を捉えるようにしている。この情報は、職員で共有し、対処の仕方を考えたり、計画見直しに活用している。	○	個別記録の本人の言動は重要であるので、今後も気づいた時点で記入していきたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望をよく把握するように努めている。	○ 個人の外出希望に関しては、できる限り同行しているが、遠方は経験がないので検討したい。また、今後、他サービスの必要性も検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ケアプラザ、地区センターの講座や催し物に参加している。	○ 公共施設が徒歩圏内がないのが不便であるが、今後もっと活用したい。ボランティアの活用をもっと進めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容のサービスを去年から利用し始めた。また、近隣の話し相手ボランティアが来所している。	○ 今後、他のサービス利用を考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性や要望に応じて指導、協力を仰いでいる。	○ 運営推進会議において、今後協働していきたいと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を取り入れ、主治医や医療機関を選択してもらっている。通院介助や情報交換は家族と相談しながら適切に行っている。	
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が認知症に詳しい医療機関であるので、随時、受診したり、相談をしている。	
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理や医療活用支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ホーム、家族、病院等と情報交換しながら、早期退院できるように対処している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、対応できるケアについての説明を行っている。段階に応じて、家族、医師等と相談、確認しながら対処している。	○	ご家族との話し合いは持ちやすいが、本人の意志確認が難しいため、職員で話し合い、意志の把握に努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として出来る事、出来ないことを見極め明記し、説明している。また、主治医、家族と共に随時検討、支援をしている。	○	職員が不安なく対応できるように随時話し合いや勉強会を持ち変化に備えたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、個人情報に留意しながら、情報を手渡したり、口頭で伝えたりしている。	○	センター方式のアセスメントを活用して情報提供したい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱は、スタッフに対して徹底している。また、日常の会話において、声掛けの仕方など、随時スタッフへの指導を行なっている。	○	職員の意識向上に取り組み、日々の関わりの中で話していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の身体状況に合わせて説明している。複数の選択肢を提案して自分で決められるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日何がしたいのか把握し、体調に配慮しながら、できるだけ個別性のある支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは声掛けしながら一緒に選んでいる。行きつけの美容院へご家族と行ったり、訪問理美容で本人の希望にそったサービスをしてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のみを業者から配達してもらい、下準備、盛り付け、後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、作る楽しみも味わえるように一緒に考え作っている。個人の嗜好品(おやつ)は冷蔵庫で預かったり、部屋で食べられるように、品質管理に留意し支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	目印になるようトイレ表示し、必要に応じてさりげない援助をしている。尿意の無い利用者には排泄表を作り誘導している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間がほぼ定着しているので、その時間に合わせて配慮している。また、希望があれば随時入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整えるよう努め、室温や湿度に注意して安眠できるように気をつけている。体調をみながら休息できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態や力に合わせて家事活動を行っている。ホームで飼っている鳥の世話を率先して行っている利用者もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談しながら金銭管理の方法を決めている。自分で金銭管理をしている、あるいはおこずかいを管理している利用者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康面と気分転換を心がけて、天気の良い日は必ず散歩に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年5月に家族の協力を得て、貸し切りバスで水族館に行った。	○	ご家族の協力を得ながら年1回は遠出の外出をしたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名の利用者は家族と相談の上携帯電話を所持してもらい、必要に応じて操作を手伝っている。他利用者も電話のやり取りの支援をしている。	○	今年は利用者手作りの年賀状を作成し、家族から喜ばれた。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過 せるよう工夫している	訪問時間は決めておらず、いつでも来ていただける様、ま た、雰囲気作りも心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束をしないケアを常に考 えている。	○	安全面を家族と随時話し合い、拘束しないケアを続ける。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	利用者の気分や状態を把握し、外出しそうな場合は、職員 と一緒に行くようにしたり、庭に一人である場合は見守りをし ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	定時と随時の見守りを行い、所在確認や安全に配慮してい る。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	心身状況の変化に応じて、随時検討している。	○	随時安全かどうかを見直したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる	スタッフへの、勉強会の開催などにより、知識を増やしてい る。また、ヒヤリハットの報告や職員の話し合いで事故防止に つなげている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	異物除去法の講習を行う等随時の勉強は行なっているが、 定期的には行なっていない。	○	提携医療機関や消防署の協力も得ながら、定期的な勉強 会を開催したい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員1,2人は地域防災の委員として訓練に参加し、地域の人々の協力を得られるようにはしているが、利用者の訓練参加はしていない。	○	訓練時期が酷暑、厳寒時期で利用者の参加が困難であるが、全職員には避難方法を身につけさせたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者それぞれの活動や心身状態の変化に伴い、転倒や事故等について度々家族と話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日行っているバイタルチェックや本人の様子や訴えから異常の早期発見に努め提携医療機関に報告し、指示を受け必要な対処をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるよう説明書を整備している。変更になった場合でも申し送りや文書にて周知できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体を動かす機会を設けるとともに、水分補給の促しを図っている。状態により服薬指示による排便コントロールをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必要な支援を行い、夜間は義歯を洗浄液に浸し保管している。必要に応じて歯科医の診療と指示、助言をもらっている。	○	昨年歯科衛生士による口腔ケアを実施したが、定期的に勉強会を実施し、全職員が技術を身につけたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、職員全員が情報を共有している。栄養士のアドバイスを受けながら、食事形態を工夫し、量の調整も図っている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し実践している。手洗い場に消毒液を置いたり、手洗いやうがいに加え、利用者、職員に予防接種を行い、頻繁に出入りする家族に対しても接種をしてもらった。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	提供される食材は、毎日鮮度に注意し、調理器具等に関しては、毎日消毒し確認表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に門がなく開放的な造りになっている。玄関から庭にかけては、季節の花やベンチを置き、庭の畑にも季節の野菜や花を育てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした時間が過ごせるように、採光や音楽、家具の配置を工夫している。壁には、利用者と職員が一緒に作ったカレンダーを飾ったり、行事の写真を貼って、見て楽しんだり、話題作りにも利用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具や席の配置に気を配り、利用者同士で話す工夫をしている。食事の席以外にリビングや廊下の長いすで自分の居場所をもってくつろげる工夫もしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物、使い慣れた物、好みの物を置き、家族の写真を飾ったりして居心地良い居室作りに配慮している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各室やトイレは、常時換気扇により換気している。冷暖房は、利用者の状況を見ながら、こまめに温度調節を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>最初からバリアフリーの設計で車椅子で自立して居室から共有の場や外に出られるようにしてあるが、必要に応じて、手すりを増設し、自立した生活ができるように工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレや居室入口に分かるような工夫をしたり、常時トイレの点灯をしておく等職員が気づきや情報交換をしながら環境整備に取り組んでいる。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダや外の庭に花を置き、利用者が自由にひなたぼっこや外を眺めたり、水やりや草取りができるように、ベンチや椅子、如雨露等を置いている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の人数に若干余裕を持たせているので、利用者一人ひとりに向き合う時間がすこしでも多く持つことができるように職員全員努めています。健康と気分転換のため、「すみれ」は庭に出での体操、「こすもす」は毎日散歩に出ることを心掛けています。外に出られない日は、室内で体操やボール等を使用して体を動かしたり、音読や言葉遊びも取り入れ無理やりではなく、楽しく体を動かすことにより身体機能の維持、低下を防ぐ工夫をしています。毎週土曜日は、体操専門スタッフによる運動をユニットごとに行っています。また、地域のサークルによる「三味線」「踊り」「手品」等のボランティアの方々も定期的に訪ねて来て、利用者の楽しみとなっています。さらに地域の方々が散歩の際、声を掛けてくれたり、行事への参加や手伝いをしてくれたり、畑や花作りのアドバイスをしてくれる等、地域との繋がりが出来てきています。今後も地域の人達との繋がりを大切にしながら、利用者が笑顔で過ごせるように本人、家族、職員と一緒に生活を考えていきたいと思っています。